

研修会

谷津田のクモの多様性

—クモの観察会の進め方—

渡部喜久子（船橋市）

日 時：2011年8月28日（日）10：00～12：00

場 所：大草谷津田いきものの里

講 師：和仁道大

参加者：30名

里山歩きが大好きで、いろんな所を歩いているうちに樹や草花、鳥、虫とだんだん目に見えるものが多くなり、とうとう苦手だったクモにまで最近は目が向くようになりました。クモの観察会は数も少なく、まだ2回目の初心者です。

講師の和仁さんは、帽子から上衣、足元の靴下までクモのイラスト入りで張り切っておられ、「今日はクモの観察会だぞう！」と言う気持ちを盛り上げるのに十分です。

観察会は坂月川の予定でしたが、連日の雨でビオトープを大勢で踏み荒らしても…との配慮から急きょ「大草谷津田いきものの里」に変更になりました。

当日は大勢の参加者で、クモだけに男性の参加者が多かったようです。

★ 講師のお話

秋に見られる見栄えのするクモの代表はジョロウグモで、夏の今は幼体、9～10月に成体になり、黄色の横縞が目立つナガコガネはもう成体になっているとのことでした。

★ クモの観察会であると便利な道具の紹介もありました

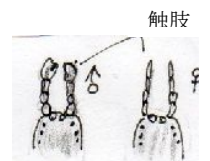
ルーペ（10倍以上）、透明なプラスチックのカップ、スプレー（網に水滴を付けるため、化粧品用の小さいスプレー～百円ショップに有）棒と傘（枝をたたいて虫を落とす、傘は直径20cmほどのミニ傘で受ける）

★ 観察会

いきものの里入口 物置小屋の軒下ではコガネグモの卵のうが2個。角ばった緑っぽい白色で形が面白い。針葉樹の多い雑木林では昼間でも暗いので小さいクモは見つけにくく巣網を見つけたり、葉を裏返したりしてオウギグモ、ヒメグモ、オオシロガネグモ、オナガグモ、ジョロウグモ、さらにクモのようなザトウムシなど

発見。クモの雌雄の見分け方、目の数などルーペを覗いて確認。雄グモの触肢の先は丸く膨れているので雌雄の区別は簡単でした。クモの目の数は8個（6個のものもあり）。ザトウムシは4対の長い脚をもち胴がずん胴で、クモのように頭胸部と胴に分かれていない、目の数も2個で少ないのがわかりました。

明るい林縁と水田付近では、ハツリグモ、ウズグモ、チリイソウロウグモ、コガタコガネグモ、オニグモの仲間（イネ科の葉で昼寝中）、ハナグモ、ナガコガネグモなど発見。



午前中の観察で沢山のクモに出合えました。印象に残ったクモはチリイソウロウグモです。クサグモの網に居候中で林縁に卵のうを2個ぶら下げていました。エゴノキの実のような形で色は赤くしずくのようにぶら下がっている様子はファンタジックでした。



クモを同定するときにはまず網の形で目安をつけるとよいそうです。クモは種類も多く、網を張らないクモや昼間寝て夜活動するクモなど多種で、奥深いです。また次のクモの観察会を楽しみにしています。